

アート・ヴィレッジとうおん構想

～東温市の記号づくり 舞台芸術の聖地を目指して～

平成 29 年 6 月

東 温 市

目次

第1章	構想策定にあたって	1
1	アート・ヴィレッジ構想の趣旨	1
2	本構想策定までの流れ	2
第2章	策定にあたっての現状	3
1	全国の動向	3
2	人の流れについて	5
3	地域資源を活かしたまちづくりの取組	7
4	今後の方向性	9
第3章	本構想の基本的な考え方	11
1	基本的な視点	11
2	将来像	12
3	構想実現に向けた戦略	13
4	移住者数の目標	14
5	まちづくりへの波及	15
6	経済への波及	16
第4章	本構想実現に向けた取組	18
1	具体的な取組	18
2	戦略に基づいた事業の取組	19
第5章	構想の実現を加速するために	27
1	構想を実現する場づくり	27
2	ターゲットを設定したモデル事業の検討	29
3	構想推進体制の考え方	31
4	事業費の考え方	32
5	官民連携まちづくり施設のスキーム	33
資料		34
1	先進地視察の概要	34
2	先進地視察の総括	35

第1章 構想策定にあたって

東温市の記号づくり、舞台芸術の聖地を目指して

- 「選ばれるまち」を目指して、核となる記号を創生
- 東温市が有している地域資源を活かし、魅力を強化
- 人口減少が緩やかな東温市だからこそ、今、できる取組を推進

1 アート・ヴィレッジ構想の趣旨

(1)構想の背景

東温市（以下「本市」という。）の人口は、平成 21 年をピークに緩やかに減少傾向にあり、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、平成 72 年（2060 年）には 23,631 人となり、現在の人口 33,520 人（平成 29 年 2 月 1 日時点）から 9,889 人（29.5%）減少すると予測されています。

本市では、こうした人口減少の状況に対応するため、平成 27 年に東温市人口ビジョン（以下「人口ビジョン」という。）を策定し、平成 72 年の将来人口展望を 30,000 人と設定しました。また、これに対応する施策の方針を取りまとめ、東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）として策定しました。

これを受け、平成 29 年には東温市移住定住促進マスタープラン（以下「マスタープラン」という。）を策定し、各種移住定住施策を本格化したところです。

今回策定する「アート・ヴィレッジとうおん構想（以下「本構想」という。）」は、本市が地域資源を活かして独自の魅力を創出し、全国に誇れる文化創造都市として発展していくことを目指して策定するものです。

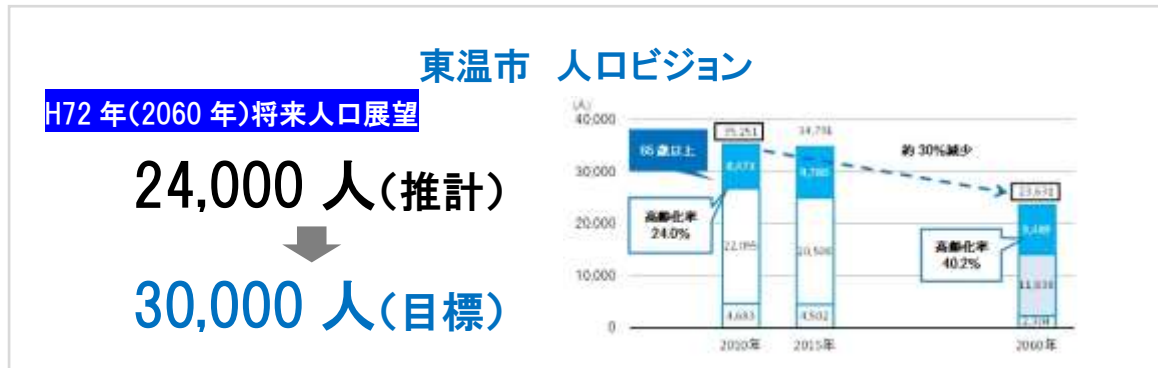
(2)本構想の期間

本構想の期間は、一部取組を先行して実施している期間を含む平成 28 年度（2016 年度）から平成 37 年度（2025 年度）までの 10 年間とします。ただし、社会環境の変化、施策の進捗や効果の検証を行いながら、必要に応じて見直すものとします。

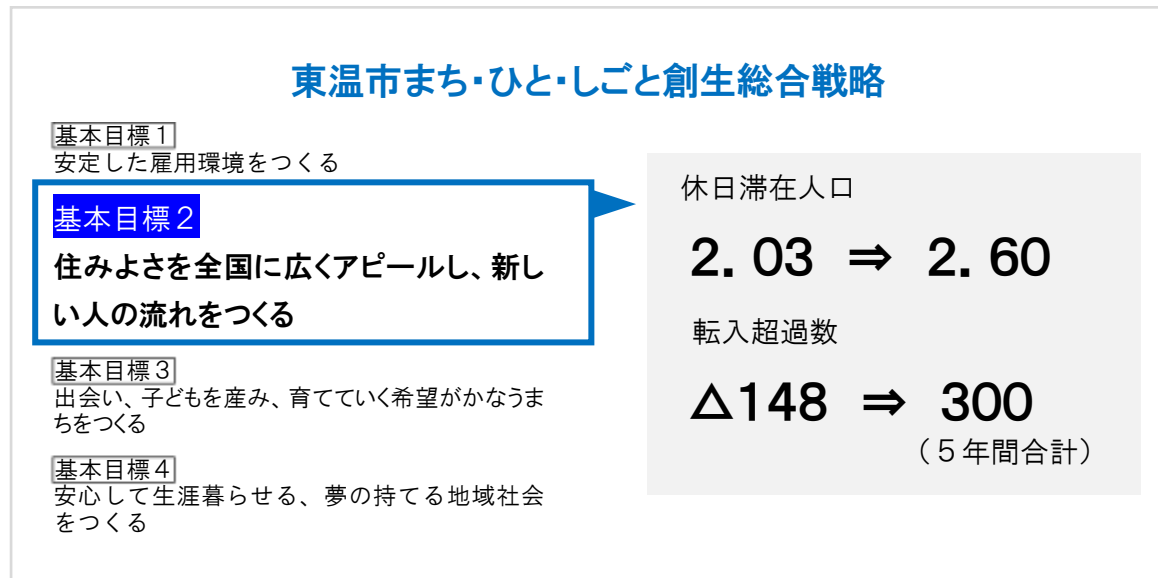
(3)本構想の位置づけ

本構想は、総合戦略のうち、基本目標 2「住みよさを全国に広くアピールし、新しい人の流れをつくる」を達成するための構想とし、マスタープランにおける「オンリーワン戦略」を具体化するものです。

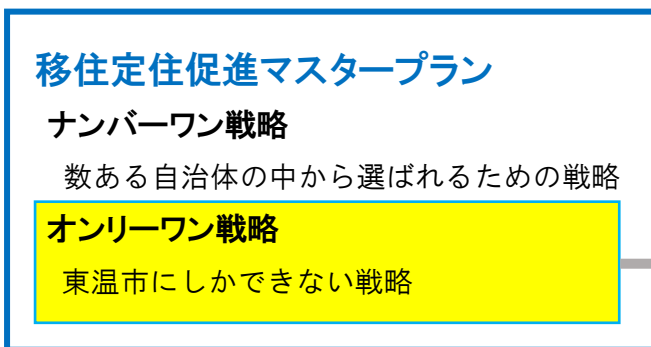
2 本構想策定までの流れ



↓
5年間の戦略として



↓
基本目標を達成する手段として



第2章 策定にあたっての現状

なぜ「アート・ヴィレッジ」を進めるのか

- 全国的なエンタテインメント市場の規模
- 本市の人の流れを把握
- 地域資源を活かしたまちづくりの取組

1 全国の動向

(1)社会情勢

少子高齢化、地域経済の低迷等を背景に「地域ブランド」という言葉が使われ始め、多くの自治体で様々な取組が見られるようになりました。

平成26年11月には「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、日本全国で地方創生の取組が活発に行われています。特に競争力を高めるための特産品の開発やゆるキャラ、PR動画等を活用した地域ブランドの構築・シティプロモーションの推進に取り組む動きが活発になっています。

また、人々の行動に目を向けると、国内観光旅行の参加人口が増加傾向であることや、ドライブに出かける人が多くなっているなど、余暇の過ごし方が多様化し、よりリアルな体験による感動を求めている傾向が見られます。

こうした背景には、インターネットの普及により多様な情報を容易に取得できるようになっていることがあり、その中から人々が選択して行動するため、競争力を持つことは至難の時代になっています。

このように、各地の取組が加熱し情報過多の現在において、一過性ではなく持続的に発展するまちづくりを進めるためには、様々な取組を一貫したブランドに繋げ、いかに普遍的に人を呼び込める要素をまち全体で創り出し続けるかが鍵となると考えられます。

- 地方創生に向けて多くの自治体での取組の活発化
- インターネットの普及により余暇の過ごし方が多様化
- モノからコトへ・リアルな体験による感動を求める傾向



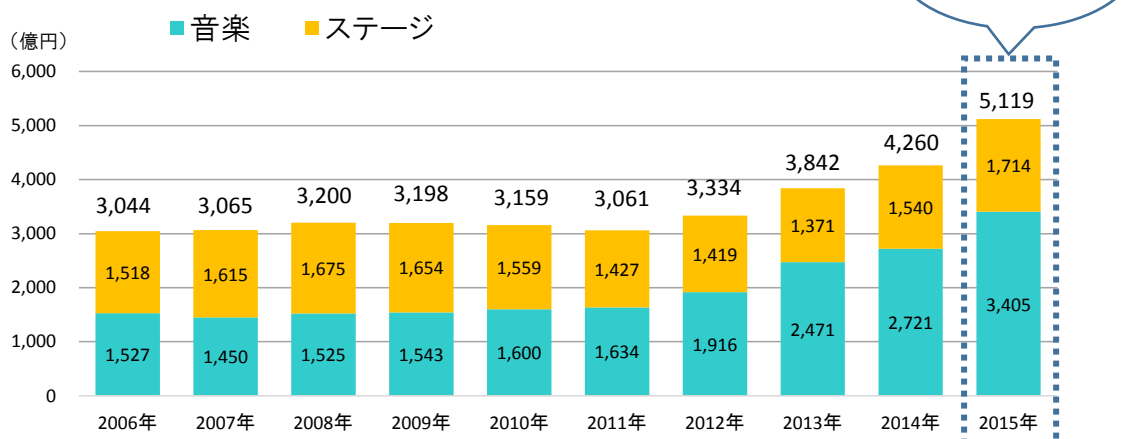
◇地域ブランドは飽和状態

⇒普遍的に人が呼び込める要素をまち全体で創出したい

(2)市場の考え方

国内のライブ・エンタテインメント市場規模は、平成13年（2001年）の2,562億円から平成27年（2015年）では5,119億円と約2倍に拡大しています。インターネットの普及によるヴァーチャル化が進行している現状に対して、市場はリアルな感動をより強く求めるようになってきているのではないかと捉えることもできます。

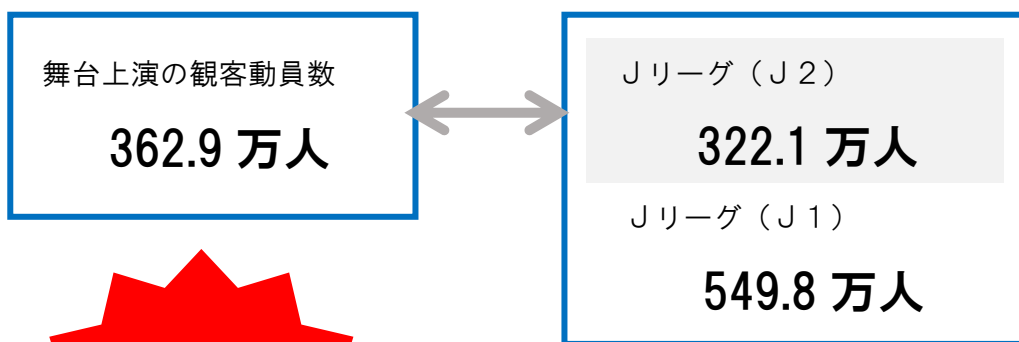
■ライブ・エンタテインメント市場の状況



ライブ・エンタテインメント調査委員会「2016 ライブ・エンタテインメント白書」
⇒集計ジャンルは音楽、ステージ(ミュージカル、演劇、歌舞伎、能・狂言、お笑い、寄席等)



劇団四季、宝塚歌劇団を除く舞台上演の観客動員数は...



東温市移住定住促進協議会より

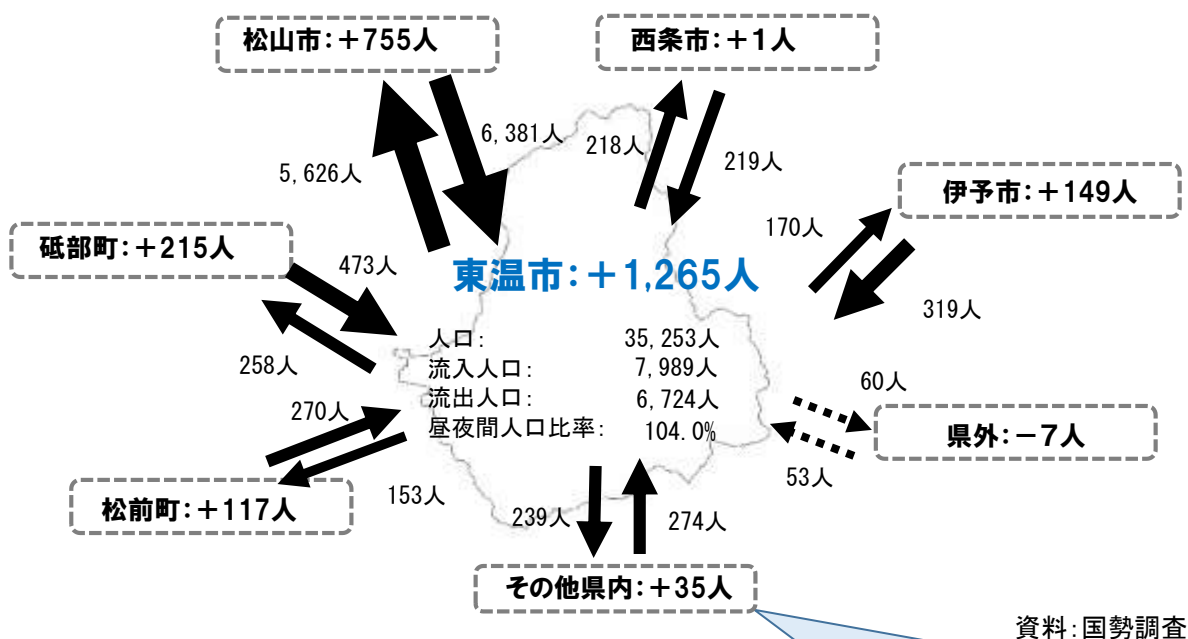


2 人の流れについて

(1)本市の流入・流出の状況

通勤・通学などで、本市に流入・流出している人口の状況を見ると、本市は、1,265 人の流入超過となっています。隣接している県庁所在地である松山市からの流入がもっとも多く、次いで砥部町、松前町となっています。

■ 流入・流出人口の状況(平成 22 年)

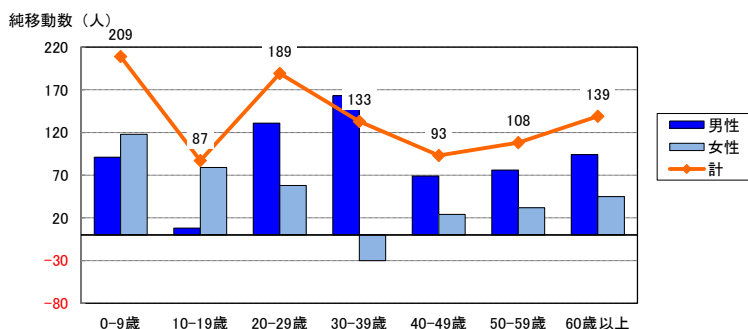


昼夜間人口比率とは

昼間人口(夜間人口(国勢調査)から他市町へ通勤・通学している(流出)人を引き、他市町から通勤・通学している(流入)人を足した数)÷夜間人口
 ※従業地不詳等が含まれるため、上記数値とは合わない。

参考:平成22年からの5年間の転入転出の状況

直近の国勢調査では、本市の転入状況は5年間で大きく増加しています。

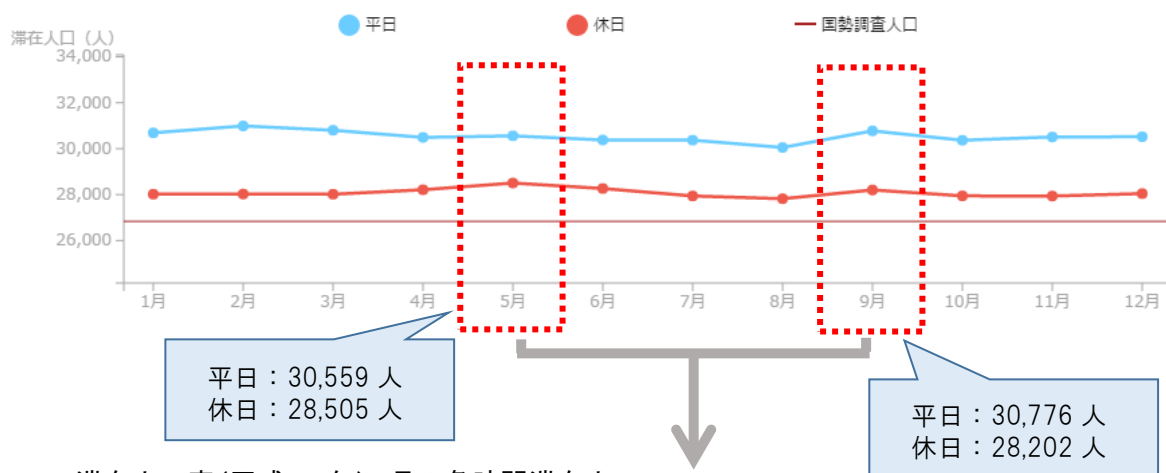


資料: 国勢調査

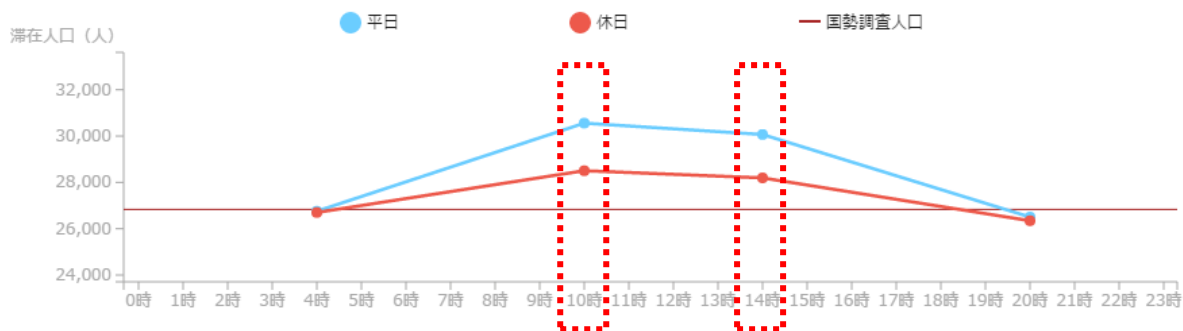
(2)本市の滞在人口率の状況

滞在人口率をみると、休日の滞在人口よりも、平日の滞在人口が多いことがわかります。1年を通して、休日滞在人口が一番多くなるのは、「5月」と「9月」となっており、時間帯としては、「10時」が多くなっています。

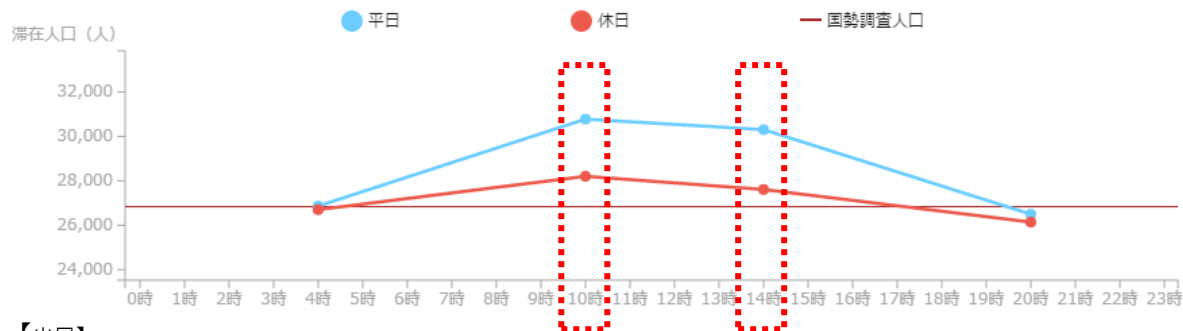
■滞在人口率(平成27年)各月10時の滞在人口



■滞在人口率(平成27年)5月の各時間滞在人口



■滞在人口率(平成27年)9月の各時間滞在人口



【出展】

株式会社 NTT ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」
総務省 (平成27年国勢調査)

【注記】

滞在人口率は、滞在人口(株式会社 NTT ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計®」+国勢調査人口(総務省「国勢調査」夜間人口))で表される。

滞在人口とは、指定地域の指定時間(4時、10時、14時、20時)に滞在していた人数の月間平均値(平日・休日別)を表している。

3 舞台芸術に関連した成長分野の取組

常設劇場(坊っちゃん劇場)の多様化

「自主制作の作品を1年間上演する」という全国的に非常に珍しいスタイルの常設劇場「坊っちゃん劇場」は、舞台上演だけでなく、市内外へ活動を広げ、教育や交流を目的とした活動を行うなど、文化の裾野を広げる各種取組が進められています。



◆教育として

市内の小中学校に役者を派遣

坊っちゃん劇場から指導スキルを持った役者を各学校に派遣し、学習発表会の劇の指導、合唱の指導、ダンスクラブの指導、人権劇の台本・演出・演技指導等、各学校の要望に合わせて指導が行われています。



◆生涯学習として

中高年の創作・発表の場、生きがづくり

プロの役者の指導のもと、40歳以上の中高年を対象とした表現活動が続けられています。

地域文化を発掘し各地で上演したり、施設において認知症の劇による啓蒙活動を行ったり、人生経験が豊かだからこそできる演劇活動が地域と一緒に進められています。



◆発展的な取組として

社会人向けワークショップ

プロの役者の演劇スキルを活用した「コミュニケーション能力向上ワークショップ」「表現力アップワークショップ」を実施されています。

能力開発研究所と共同で、「営業RPGワークショップ」、「接遇RRGワークショップ」、会社の創業物語を社員たちが取材し劇を創り演じる「劇団カンパニーコース」等企業の要望に応じたプログラムが提供されています。



市民参加型ミュージカルのプロデュース

坊っちゃん劇場を構成する脚本家、音楽家、振付家やプロの役者が本格的な市民参加型ミュージカルをプロデュースしています。本市においても、平成29年4月に開催予定です。

市民が演劇という表現活動を通じて自分たちのまちをPRすることにより、演じる側・観る側双方の地域への愛着や理解が深まります。また、演劇を通じた多世代の交流の実現や観劇文化の普及など、市の文化度を高める多様な効果が期待されます。



現状の傾向から

- 地方創生に向けて多くの自治体での取組の活発化
- インターネットの普及により余暇の過ごし方が多様化
- モノからコトへ・リアルな体験による感動を求める傾向
- ライブ・エンタテインメント市場規模の拡大

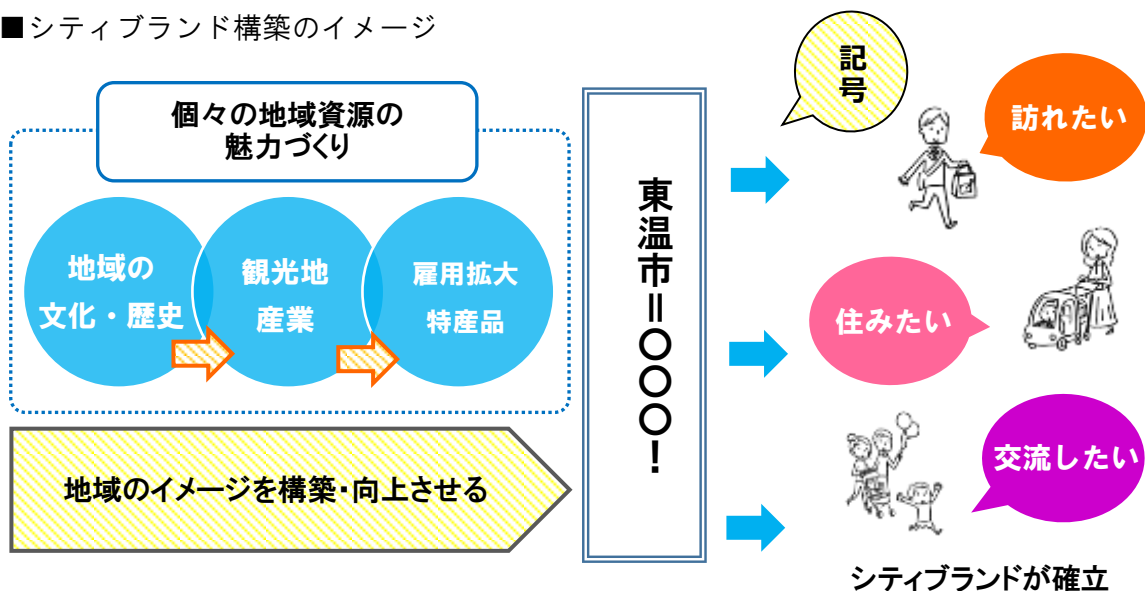
本市の状況

- 松山市、砥部町等近隣市町からの人口流入が多い
- 休日滞在人口よりも、平日滞在人口の方が多い
- 住み良さランキングが四国内で上位など、移住・定住に対する強みがある
- 「坊っちゃん劇場」の活動が多様化-教育・交流への波及

(1) 移住定住を加速させるための記号が必要

マスタープランを推進し、本市の認知度向上、交流人口増加につなげるためには、本市の記号（東温市=●●）の設定が必要です。

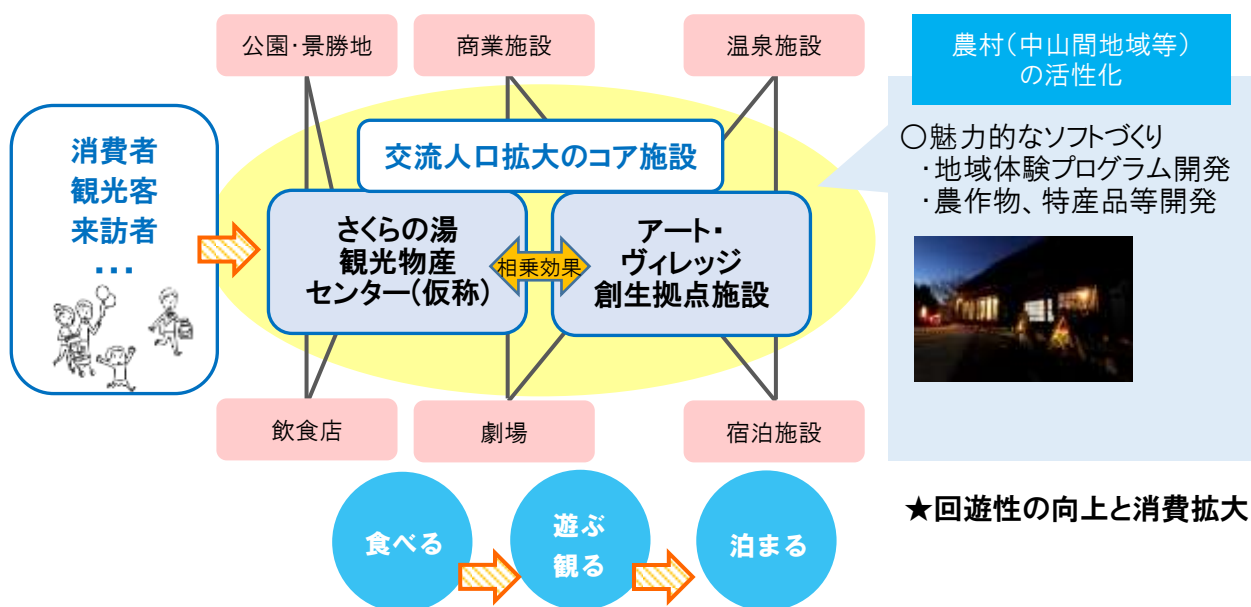
■ シティブランド構築のイメージ



(2)交流人口増・消費拡大のために、滞在時間の延長が必要

交流人口増、消費拡大には、本市の持っている魅力的な要素を組み合わせ、滞在時間を延長する必要があります。また、中山間地域の多い本市においては、新たな人の流れを創出するための中山間地域での地域体験プログラムや特産品開発等のソフトづくりも重要となります。

■今後目指す人の流れ（複合滞在型）



(3)本市独自の価値の創出

移住者を呼び込むためには、「やりたい仕事」や「学びたい学校がある」という明確な理由につながる、本市独自の価値を創出することが有効な施策の一つとなります。

本市では、他のまちにはない独自の価値を発信し続ける坊っちゃん劇場に着目し、総合戦略において、「坊っちゃん劇場を核とした文化観光振興」を主要施策に位置付けています。これに伴い、本構想では、坊っちゃん劇場が持つ舞台芸術のノウハウをまちづくりに波及することで、本市で「新しい挑戦をしたい」「学びたい」と思える独自の価値を創出することを目指します。

第3章 本構想の基本的な考え方

1 基本的な視点

アート・ヴィレッジ構想は、「東温市と言えば、舞台芸術の聖地」としてのブランディングを図り、舞台芸術を核とする文化芸術の産業化及びアーティスト人材の移住、文化創造都市としてのシティブランドの醸成によるまち・ひと・しごとの好循環を目指すものです。

アート・ヴィレッジ「とうおん」構想の理念

東温市=舞台芸術の聖地

記号

- 01 坊っちゃん劇場を活用した、芸術関連人材の移住・活躍をきっかけとした交流人口の拡大を図る
- 02 交流人口拡大による観光関連産業・周辺産業での市内経済の活性化(=所得向上及び雇用創出)を図る
- 03 演劇関連の「仕事」と「学びの場」の要素を創出する

大事にしたい視点

理念を設定する上で、大事にしたい視点については、本構想の各種取組によって、本市の新たな魅力が生まれ、集客数が増加し、消費が拡大する流れをつくることです。消費の拡大は、雇用を生み、さらに人を呼ぶことにつながります。

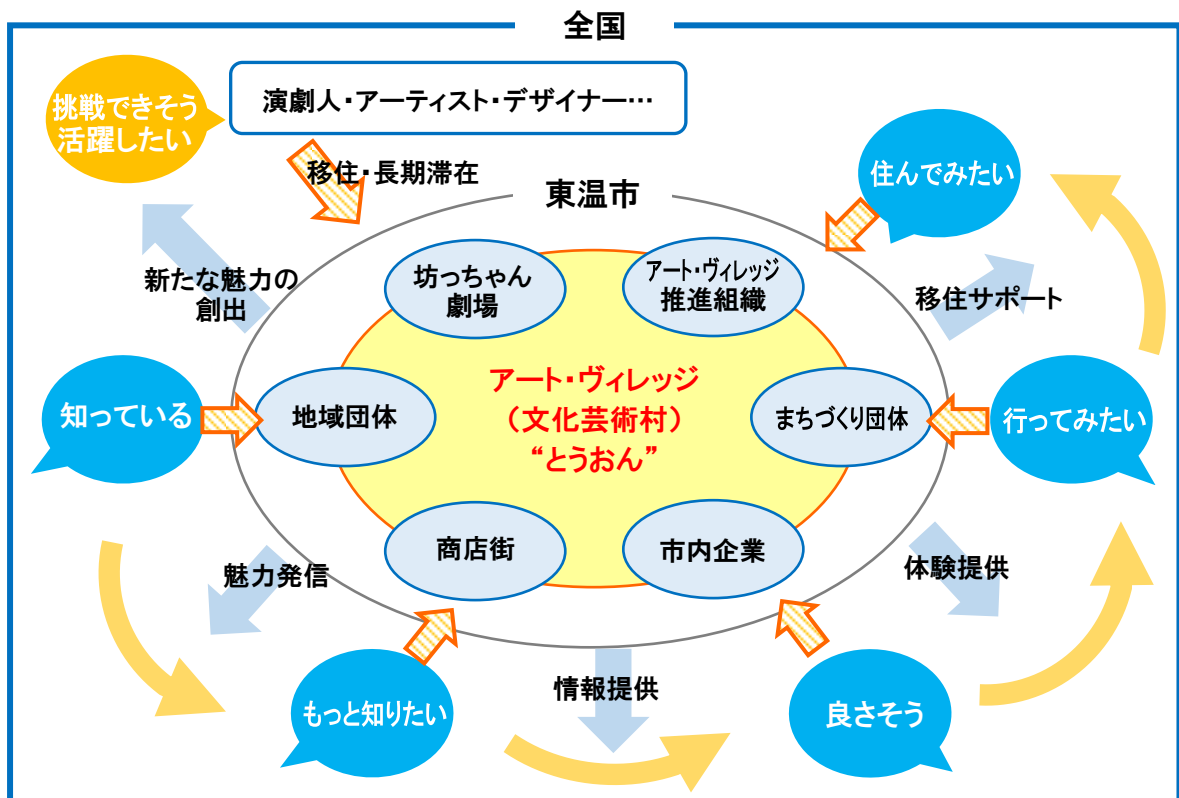


2 将来像

本構想では、各種取組の推進により舞台芸術関連の「仕事」と「学びの場」を提供することで、全国から活躍の場を求めているアーティスト人材（役者・脚本家・音楽家・振付家・音響照明等の技術スタッフ・デザイナーその他関連人材）の移住、長期滞在を促進します。さらに、これらの人材の活躍を積極的に情報発信していくことで、「東温市でやりたい仕事ができる」というメッセージを全国に届け、さらなる移住につなげます。

また、本構想は、産業の側面からは舞台芸術を中心としたエンタテインメント産業の集積を目指すものであり、魅力的なコンテンツの拡充につながります。そのため、本構想の各種取組を積極的に情報発信し、交流人口の拡大にもつなげます。

目指す姿



3 構想実現に向けた戦略

本構想では、「文化交流拠点の創造」・「アーティスト人材の移住促進と人材育成」・「舞台芸術から広がる新たな価値の創造」の3つの戦略に基づき各種取組を推進します。

(1)文化交流拠点の創造

坊っちゃん劇場に隣接する商業施設（クールモール）の空きスペースを、舞台芸術を中心とする創造活動の拠点としてリニューアルします。

整備内容は別途詳細に設計するものとしませんが、多目的稽古場、小劇場、交流サロンの3つのエリアを計画します。

多目的稽古場エリアについては、アマチュア劇団や各種パフォーマンス団体等が創作から稽古、リハーサル、小規模な公演まで行えるよう整備します。小劇場エリアについては、舞台芸術その他の多様な実演芸術の公演が実施できるよう整備します。交流サロンについては、演劇や音楽その他多様な創作活動との触れ合いを通じて、子ども、高齢者、現役世代など多世代が交流できる交流の場として整備します。

また、いずれのエリアにおいても、本格的な創作、公演活動以外に、気軽に楽しめる演劇体験やアートセラピーによる健康づくり、ワークショップ等、多用途に活用できるよう設計上の配慮を施します。施設の活用に当たっては、大学や専門学校等の合宿誘致や演劇大会等の開催誘致を行い、広域から利用を促進します。

(2)アーティスト人材の移住促進と人材育成

豊かな自然環境を有する本市の強みを活かし、アーティスト人材をはじめとした舞台芸術関係者を受け入れるため、空き家等を活用したシェアハウスや、アーティスト同士の交流の場として利用できるアトリエなどを開設します。

また、文化交流拠点を活用して、役者の道を志す人が、それぞれのレベルに応じて演劇の基礎を学べる俳優養成所を設置します。

(3)舞台芸術から広がる新たな価値の創造

文化交流拠点の創造に合わせて、舞台芸術の可能性を広げる取組として、映像化が難しいと言われる舞台芸術の臨場感を表現するための8Kスーパーハイビジョン常設シアターの導入を官民連携して調査、検討します。8Kシアター導入が実現することにより、映像編集ラボ（映像制作会社）等の誘致、立ち上げも視野に入れ、舞台芸術から派生する新たな価値を創造します。

4 移住者数の目標

マスタープランにおいて、本構想での移住者受入れの目標人数は、地域おこし協力隊等を含めた舞台芸術関連人材、俳優養成所の学生・講師、8K（最先端映像技術）編集ラボのスタッフを中心に約 100 人と設定しています。

地域おこし協力隊については、本構想の専従人材として、地方で新たな挑戦する意欲のあるエンタテインメント業界経験者やデザイナー等を招致します。（平成 29 年度 4 名着任予定）

また、俳優養成所を開講することにより、養成所で学び、本市を舞台に活躍するといったモデルが確立できれば、さらなる定住促進が図れます。

アート・ヴィレッジ「とうおん」構想目標

移住者目標：94人（5年間）



移住目的

試算

人数

関連人材

- 地域おこし協力隊：4人
- 小劇場、多目的稽古場、交流サロン関連スタッフ：10人

14人

最先端映像技術 編集ラボ スタッフ

- 編集専門人材：10人
- 専門人材家族：15人
（1世帯平均 1.5人と仮定）

25人

俳優養成所 講師・学生

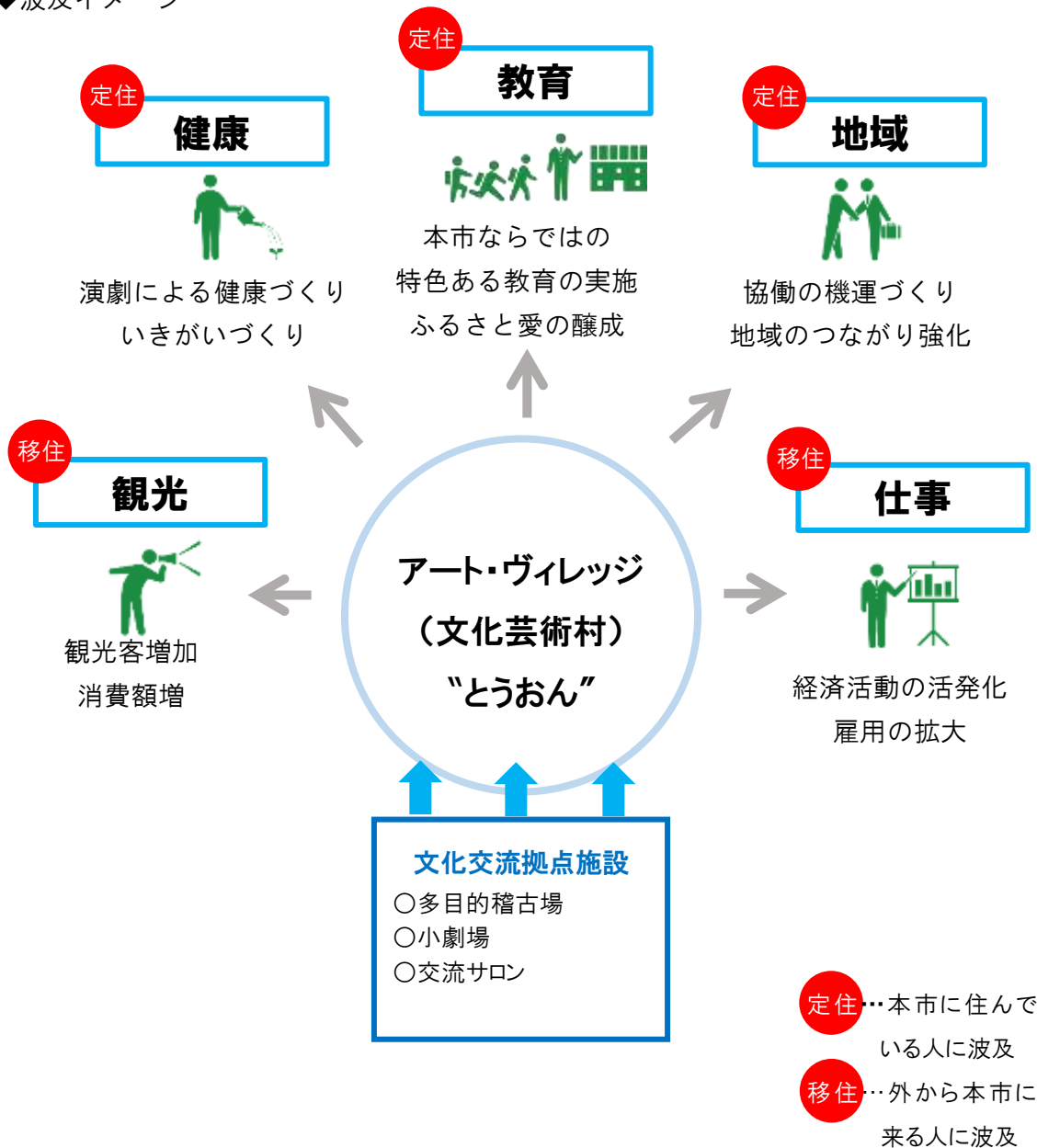
- 講師：5人
- 市外からの学生：40人
（学生数 50人、市外率 80%と仮定）
- 卒業生の定住：10人
（2人/年×5年と仮定）

55人

5 まちづくりへの波及

本構想の波及効果として、シティブランドの確立、シビックプライド（=市への愛着と誇り）の醸成が期待されます。

◆波及イメージ





6 経済への波及

本構想の取組による移住者の増加、交流人口の拡大が消費に与える効果を試算します。試算上における「交流人口」の人数については、整備を予定している文化交流拠点施設の目標来館者数とし、一人当たりの観光消費額の試算については、文化交流拠点施設及びそれ以外の本市内での消費額として試算しています。また、消費効果を考えるにあたっては、「交流人口≒経済人口」として定義づけています。

消費の波及効果

消費波及効果：約3億1750万～7億1750万（5年後）

項目	試算	合計
 移住者	目標 一人当たり年間消費額 94人 × 125万 *国平均（総務省家計調査）	1億1750万円
 経済人口 (交流人口)	目標来館者数 一人当たり日帰り観光消費額 40,000人 × 5,000～15,000円 *国平均を参考 (平成27年観光庁観光統計)	2億～6億円

*日帰り観光消費額については、旅行中または、旅行のために消費した支出額の合計をいいます。（本試算においては、本市に入ってから、本市から出るまでとしています。）

ポイント

消費の波及効果については、目安となる試算となっています。本構想における拠点施設の来館者数40,000人を達成した場合、消費の波及効果は、本構想における移住者目標を達成できた場合の約5倍になる可能性があります。つまり、約500人移住した効果と同等のものとなっています。

しかしながら、上記の効果を最大限に発揮するためには、市内での回遊性を高め、本市での滞在時間を延長し、観光消費額を増加させることが必要になります。

6 本構想が実現した後のあるべき姿

本構想の実現により本市のあるべき姿を示しています。アート・ヴィレッジの姿を大きな木に例え、土壌をつくり、種を植え、木を育てるといった3つのステップで、「舞台芸術の聖地＝東温市」を目指します。



第4章 本構想実現に向けた取組

1 具体的な取組

本構想の実現に向けて、5年間の中長期的な取組を想定しています。現在、推進している総合戦略に合わせて、事業立ち上げに関しては、3年目までに集中的に取り組みます。

本市全体で機運を高めるためにも、本市の取組姿勢を示し、新たな人の流れを創出します。事業の取組に関しては、構想におけるソフト整備を先行し、ソフト事業を強化するためのハード整備を行います。

戦略

- (1)文化交流拠点の創造
- (2)アーティスト人材の移住促進と人材育成
- (3)舞台芸術から広がる新たな価値の創造

	具体的な取組	実施時期				
		H28年	H29年	H30年	H31年	H32年
(1)	①全国的な演劇祭の開催とミュージカルアカデミーの開講		開催準備 ●	開催 ●	継続開催 ●	
	②演劇体験・アートセラピーの提供	企画・実施・検証 ●		提供開始 ●		
	③地域景観を活用した演劇文化の発信	連携 ●	メニュー開発 ●	開始 ●		
(2)	①俳優養成所の開設		人材養成 ●	養成所設置 ●	運営 ●	
	②舞台芸術交流サロンの開設		サロンの設置 ●	継続運営 ●		
(3)	①舞台芸術映像シアターの検討		可能性調査 ●	試写会開催 ●	技術導入 ●	運用開始 ●
	②映像化編集ラボの設置		人材誘致 ●	編集会社の誘致 ●	編集ラボ設置 ●	運用開始 ●
	③付加価値創造に向けた商品開発		企画・開発 ●		運用開始 ●	

2 戦略に基づいた事業の取組

本構想で設定した3つの戦略に基づき事業に取り組みます。

(1) 文化交流拠点の創造

舞台芸術の
聖地化

① 全国的な演劇祭の開催とミュージカルアカデミーの開講

中四国大学演劇祭の新規企画や全国高校演劇大会の誘致など、全国規模の演劇大会を開催するとともに、子どもから大人まで多世代に対応するミュージカルアカデミーを開講します。

実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 中四国大学演劇祭開催 ● 全国高校演劇大会誘致活動 ● 市民ミュージカル事業 			
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
	● 演劇祭開催準備	● 中四国大学演劇祭開催		
	● ミュージカルアカデミーの開講	● 全国高校演劇大会の誘致活動	● 全国高校演劇大会開催	
● 市民ミュージカル関連事業・プロモーション				
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
構想のプロモーション (周知活動、事業補助)	演劇祭・大会の企画、開催		演劇祭・大会の開催サポート	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生、大学生の演劇祭・大会を開催することにより、高校生、大学生との交流ができ、U・I・Jターンのきっかけづくりとなる。 ・ 舞台芸術関係者をめざす、高校生、大学生に対して、本市に移住することにより、舞台芸術関係者になる可能性が広がることを訴求することができる。 ・ 「東温市＝舞台芸術の聖地」を定着させる。 ・ 市民ミュージカル関連事業を進めることで、市民と一体となって構想を推進することができる。 				

② 演劇体験・アートセラピーの提供

気軽な演劇体験から本格的なレッスン、さらには演劇手法を用いた企業・スポーツ研修や就職活動支援、高齢社会に対応するアートセラピーまで、現代社会のあらゆる世代の悩みや課題に対応する「ここでしか味わえない体験・サービス」を拠点施設の環境や役者をはじめとするアーティスト人材のスキルを活かして提供する体制を整え、収益事業化を目指します。

実施事業		●アートセラピー事業				
		●演劇体験事業				
実施時期						
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年		
ワークショップ 企画立案、実施	アートセラピー等 の提供開始					
	演劇体験の実施					
役割						
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場			
構想のプロモーション (周知活動、事業補助)	アートセラピー・演劇体験の企画・実施 周知PR活動		アートセラピールームの運営補助 演劇体験実施サポート			
効果						
<ul style="list-style-type: none"> ・アートセラピー、演劇体験を実施することにより、他にない付加価値をつけることができる。 ・舞台芸術の聖地であることを定着させるためのツールとなる。 						

③ 地域景観を活用した演劇文化の発信

中山間地域等の運営組織が運営する交流拠点施設や地域体験プログラムと連携した演劇・音楽イベントや、アーティストが一定期間の滞在を通じて豊かなロケーションを活かした独自作品を創作し、その場で上演する創作演劇など、市内各地で演劇その他の実演芸術が楽しめる環境づくりを進め、反響の高い取組については収益事業化を図ります。

実施事業		<ul style="list-style-type: none"> ●中山間地域等の運営組織と連携した演劇・音楽イベントの実施 ●アーティスト滞在型の創作活動の促進 		
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
中山間地域等の運営組織との連携準備	地域と連携した演劇・音楽イベント、地域景観を活用した創作演劇の上演等	地域での演劇・音楽のメニュー化		
役割				
東温市	アート・ヴェリτζ推進部会	坊っちゃん劇場		
中山間地域等の運営組織との調整	演劇人・音楽家等の誘致、イベント企画・実施 中山間地域の環境を活用した独自作品の企画開発・試行	中山間地域の環境を活用した独自作品の企画開発・試行サポート		
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・市内各所で新たな実演芸術の楽しみ方を普及することができる。 ・地域で上演する演劇・音楽のメニューを開発・試行することにより、舞台芸術の聖地としての取組を地域住民に広く周知することができる。 ・中山間地域等の運営組織と連携することにより、構想の効果を市全体に波及させることができる。 				

(2)アーティスト人材の移住促進と人材育成



① 俳優養成所の開設

現在、坊っちゃん劇場では演劇を目指す人材が集中する大都市圏でオーディションを行い、役者を誘致していますが、今後は演劇を目指す若者が本市に集い、演劇人が育つまちに発展するよう、演劇を基礎から学べる俳優養成所の開設を目指します。

実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ●俳優養成所講師人材のスキルアップ研修 ●俳優養成所の開設 			
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
	俳優養成所講師人材の養成	俳優養成所設置	俳優養成所運用	
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
プロモーション (周知活動、事業補助) 人材誘致活動	俳優養成所の企画 俳優養成所のPR活動		スキルアップ研修の企画 俳優養成所開設 人材誘致活動	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・俳優養成所を開設することにより、俳優を目指している人材の流入が期待できる。 ・俳優養成所から俳優が輩出されることにより、本市の知名度が上がる。 				



② 舞台芸術交流サロンの開設

平成 28 年度に実施している市民ミュージカルへのオーディション参加者は、市外、県外者が全体の 5 割を超えており、本市の演劇環境は高い希少価値と独自性を有していることが考えられます。このポテンシャルを活かし、多様な芸術活動を通じた交流により将来の移住につなげるため、舞台俳優との交流会やワークショップなどを実施します。

また、各地で開催されている市民ミュージカル出演者など、舞台芸術への興味関心が高い人々が日ごろから東温市に集い、演劇を通じたコミュニティーを広げていく場づくりを支援することで、地域演劇人の活動拠点化を目指します。

実施事業		<ul style="list-style-type: none"> ● 交流会・ワークショップの実施(プロと触れ合う場を提供) ● ミュージカル交流サロンの開設(身近な交流を創出) 		
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
	舞台俳優との交流会・ワークショップの実施 			
	ミュージカル交流サロンの開設 			
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
プロモーション (周知活動、事業補助) 交流サロン開設補助	交流会・ワークショップPR活動 交流サロンの企画・運営		交流会・ワークショップの開催 交流サロンの企画・運営サポート	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験型ワークショップを実施することにより、市内外の人々がプロの演劇人やアーティストと触れ合う機会を提供することができ、舞台芸術の裾野・需要の拡大につながる。 ・ 交流サロンを開設することにより、多様な芸術活動の交流が生まれ、将来的な移住につなげることができる。 				

(3) 舞台芸術から広がる新たな価値の創造

付加価値の
創出

① 舞台芸術映像シアターの検討

生の舞台に迫る臨場感で国内外の作品が楽しめる、8K スーパーハイビジョンの常設シアターの設置を調査・検討します。

実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ●8K スーパーハイビジョンの常設シアター設置に向けた調査・検討 ●最新映像技術の試写会開催 			
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
	舞台芸術の映像産業化 可能性調査 ●————→ 最新映像技術の 試写会誘致 ●————→	●————→ 最新映像技術の 試写会開催 ●————→	●————→ 最新映像技術の導入 ●————→	●————→ 8Kシアター運用 ●————→
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
最新映像技術の試写会誘致	舞台芸術の映像産業化 可能性調査		最新映像技術の試写会誘致 舞台芸術の映像産業化 可能性調査 最新映像設備の導入計画の検討 最新映像技術の導入 8Kシアター運用	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・映像化が難しいと言われる舞台芸術を最新映像技術である8K技術の研究をすることにより、文化交流拠点施設に新たな付加価値が追加され、集客性が高まる。 ・舞台芸術を産業化することより、新たな雇用、人材の流入が期待できる。 				

② 映像化編集ラボの設置

舞台演劇、パフォーマンス、ダンス、市民ミュージカル、郷土芸能の数々を映像化することによって、『感動』を記録としてだけでなく、その場にいるように再現することができ、新しい価値を提供します。

実施事業		<ul style="list-style-type: none"> ●映像編集人材の誘致活動 ●郷土芸能、各種パフォーマンス等の映像化に関する調査研究 ●映像化編集ラボの設置 		
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
	映像編集人材・編集会社の誘致			
		映像編集ラボの設置	映像編集ラボの運用	
		映像化に関する調査研究		
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
編集子会社の誘致	映像編集人材の誘致・映像演劇作品専門の演出家の育成 市内の文化芸術史、人材等を題材とした映像作品の制作		編集ラボの設置	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 Kシアターを活用し、映像編集ラボを立ち上げるにより、新たな芸術分野として映像分野への発展と映像編集人材の流入が期待できる。 ・ 映像編集ラボが立ち上がるにより、新たな映像作品が開発できる。 				

③ 付加価値創造に向けた商品開発

8Kシアターの設置、編集ラボの設置が実現した際に、例えば演劇作品や音楽作品を8Kによるプロモーションビデオとして制作するサービス等、新たに設置する文化交流拠点の付加価値を創造するための商品・サービスの開発を進めます。

実施事業		<ul style="list-style-type: none"> ● 商用化に関する調査 ● 世界8K映像演劇祭の開催 ● 演劇関連合宿等の映像化プログラム開発 		
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
プロモーション (周知活動、事業補助)	商用化に関する調査 8Kシアターを活用した商品・サービスの企画開発・試行 (例：8K技術による坊っちゃん劇場作品のプロモーションビデオ制作等)		世界8K映像演劇祭の開催	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 8Kシアターがある唯一のまちとして、8K技術を活用した商品・サービスを開発することで、舞台芸術を質の高い映像作品として広く一般に普及させることで、生の舞台の価値も同時に高める。 ・ 8Kシアターを設置することで、舞台芸術の聖地としての機能を強化できる。 				

第5章 構想の実現を加速するために

1 構想を実現する場づくり

本構想の実現に向けて、3年目までに集中的に取り組む事業として、構想内で示している具体的な戦略をより強固なものにするために拠点整備、空き家・空き店舗を活用した移住受け皿の整備等、ハード整備を行います。

① 拠点施設の整備

坊っちゃん劇場に隣接する商業施設（クールスモール）の空きスペースを文化交流拠点としてリニューアルし、アマチュア劇団や各種パフォーマンス団体のほか、全国の舞台関係者の合宿やワークショップ、演劇以外のジャンルの公演等、多用途に使用できるよう整備します。

実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ●多目的稽古場の新設 ●小劇場の新設 ●交流サロンの新設 			
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会		坊っちゃん劇場	
拠点施設整備 (レスパスシティ施設の一部改修)	運営計画策定 拠点施設運営 空間設計／コーディネート 拠点施設PR		拠点施設整備 (レスパスシティ施設の改修部分以外の模様替え等) 拠点施設備品購入 空間設計／コーディネート	
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・多目的稽古場、小劇場、交流サロンの新設により、舞台芸術の聖地化に向けた核となる施設整備ができ、舞台芸術を中心とした多様な実演芸術の拠点として機能する。 				

② 創造活動の場と移住先の確保

豊かな自然環境とストレスフリーなロケーションを有する本市にアーティスト人材を受け入れるため、演劇関係者向けのシェアハウスや、アーティスト同士の交流の場として利用できるアトリエ等を、地域の資源を活用して開設します。

実施事業		<ul style="list-style-type: none"> ●演劇人材向けのシェアハウス、アトリエ整備 ●空き家、空き店舗調査 		
実施時期				
平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	平成 32 年
空き家 空き店舗把握	シェアハウス アトリエ整備	シェアハウス アトリエ運営管理		
役割				
東温市	アート・ヴィレッジ推進部会	坊っちゃん劇場		
空き家、空き店舗情報提供 シェアハウス・アトリエ整備補助	シェアハウス・アトリエ候補地選定 シェアハウス・アトリエ整備	空間設計／コーディネート アトリエ整備による人材誘致		
効果				
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き店舗の活用が促進される。 ・シェアハウス、アトリエが整備されることにより、演劇人材の流入が見込める。 ・演劇人材の活動の場ができ、交流ができる。 				

2 ターゲットを設定したモデル事業の検討

本構想の実現に向けて、集中的に取り組む事業として、構想内で示している具体的な戦略により整備される資源等を活用して、新たなモデル事業を検討します。

また、これからの事業検討にあたっては、国が公開している地域経済分析システム（RE S A S）を活用し、事業を検討します。

モデル事業例①

リフレッシュとうおん事業(仮称)

事業概要

本市は近隣市町からの通勤者が多く、休日滞在人口よりも平日滞在人口が多くなっています。この事業は、そうした本市の特徴を活かし、通勤者をターゲットとして、仕事終わりに演劇体験と入浴施設を活用してリフレッシュしてもらう事業です。

事業としての確立ができれば、今後は、インバウンド事業として、外国人モニターツアーや家族を対象とした事業へも発展ができます。

また、脚本をもとに感情をこめて発声する体験を発展させ、参加者の日々の出来事を脚本化し、感情をこめて発声することでストレスの発散につなげることも考えられます。

ターゲット

- 平日に本市へ通勤している方
- 30～50代で活動的な体験や健康に興味がある方

事業のねらい

- 演劇に触れる機会をつくる
- ストレスの発散
- 健康増進効果・医療費低減額の検証と可視化

しかけ

- 演劇体験により汗をかく
- 本市資源である入浴施設を活用
- 演劇体験でしか味わえない自己解放、感情移入等

根拠・理由

- ・休日よりも平日滞在人口が多い
- ・心身の健全育成に興味を持っている世代
- ・SNSを通じた情報拡散力
- ・非日常体験を求めるトレンドがある
- ・プレミアムフライデーの導入
- ・入浴によりタンパク質を修復できるヒートショックプロテイン効果を訴求
- ・演劇体験がまだ普及していないことをチャンスに非日常を演出

とうおん映像ラボ事業(仮称)

事業概要

坊っちゃん劇場が今後導入を検討する最新映像技術（8K）を活用した映像化事業です。映像化が難しいといわれる舞台芸術を映像化できる施設・設備・人材が整っているのは本市だけであるという状況となれば、その強みを活かし、大学、専門学校、演劇関連団体等の合宿誘致が可能です。

また、演劇関連団体に限っては、自身のプロモーション活動としても活用できるように映像化します。

この事業は、戦略内にある全国演劇祭の誘致や合宿誘致を実現するためのきっかけとなります。また、映像化することで、シアターで上映し、演劇を浸透させるツールとしても活用できます。

根拠・理由

ターゲット

- 大阪府、広島県、四国内
- 大学、専門学校、演劇関連団体
- 劇団

- ・RE S A Sによる滞在人口では、大阪府、広島県からの流入が多くなっている

事業のねらい

- 舞台芸術の聖地としての確立
- 県外からの流入
- 交流人口の拡大

- ・映像化できる技術は他市町との差別化につながる
- ・高速道路のICがある強み

しかけ

- 映像化は本市でしかできない
- 流入予定の演劇関連人材を活用
- 口コミ、インターネット上の情報拡散

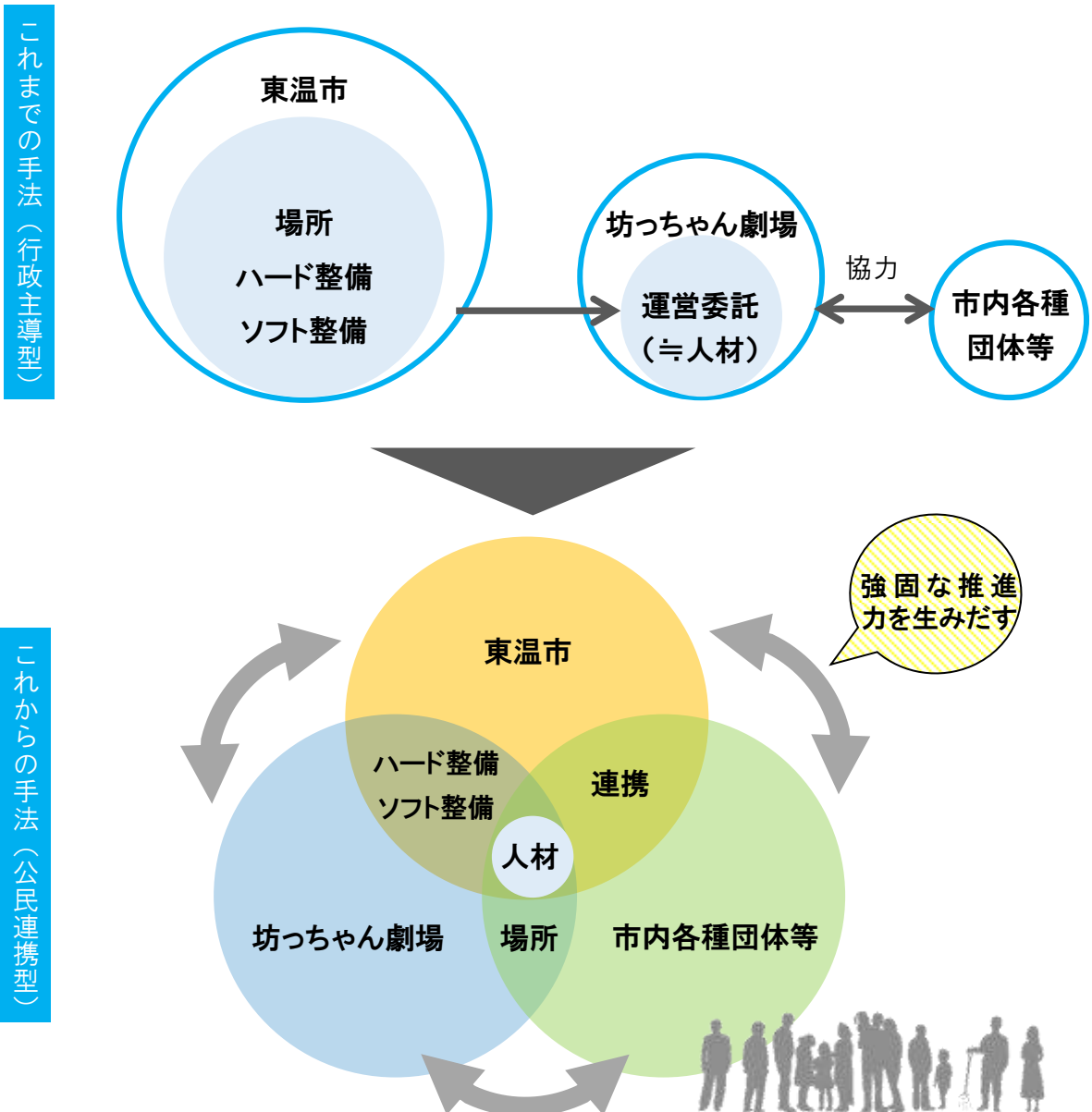
- ・演劇関連人材の地域おこし協力隊が配属される
- ・大学生、専門学生等、若い年齢層のSNS活用率の高さ
- ・劇団のプロモーション活用による情報拡散

3 構想推進体制の考え方

これからの時代の公共投資では、行政が単独で事業の整備・推進を行うのではなく、PPP（Public Private Partnership）と呼ばれる官民が得意分野を活かして新しい価値を創造し、その対価で維持管理費を賄える、持続可能性の高い手法が求められています。

このような背景も踏まえ、本構想は、本市が単独で事業を推進するのではなく、東温市移住定住促進協議会内「アート・ヴィレッジ推進部会」及び坊っちゃん劇場をはじめとする市内各団体と本市がそれぞれの得意分野を持ち寄り、共同でプロジェクトを推進します。

構想推進体制の考え方



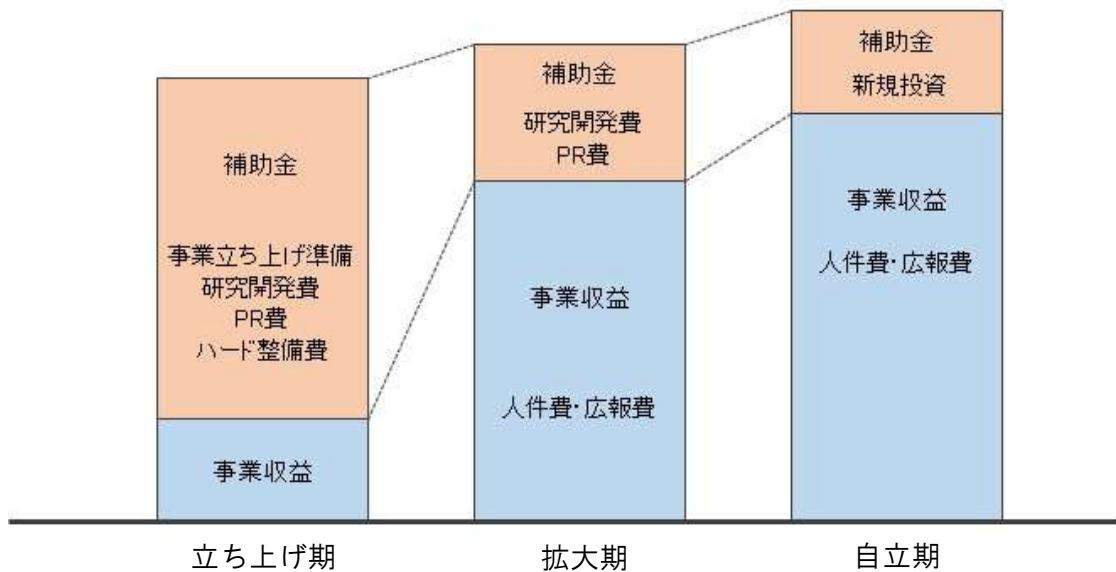
4 事業費の考え方

本構想の事業費については、立ち上げ当初から数年は補助金主体の運営ですが、当初計画した事業については数年以内に自立させ、事業の維持運営のための補助金を必要としない状態の実現を目指します。

当初は、事業の立ち上げにかかる準備費用やソフト事業の研究開発費、文化交流拠点施設等のハード整備費用を中心に補助金主体の運営を進めますが、事業の拡大にあわせて人件費等の運営経費を事業収益で賄える割合を増やしていき、最終的には事業にかかる全ての費用を事業収益のみで賄える自立した状態を目指します。

なお、安定して事業で得られた収益が費用を上回る状態になった場合には、新たな事業への再投資を行い、本構想のさらなる発展や本市のよりよいまちづくりに貢献します。

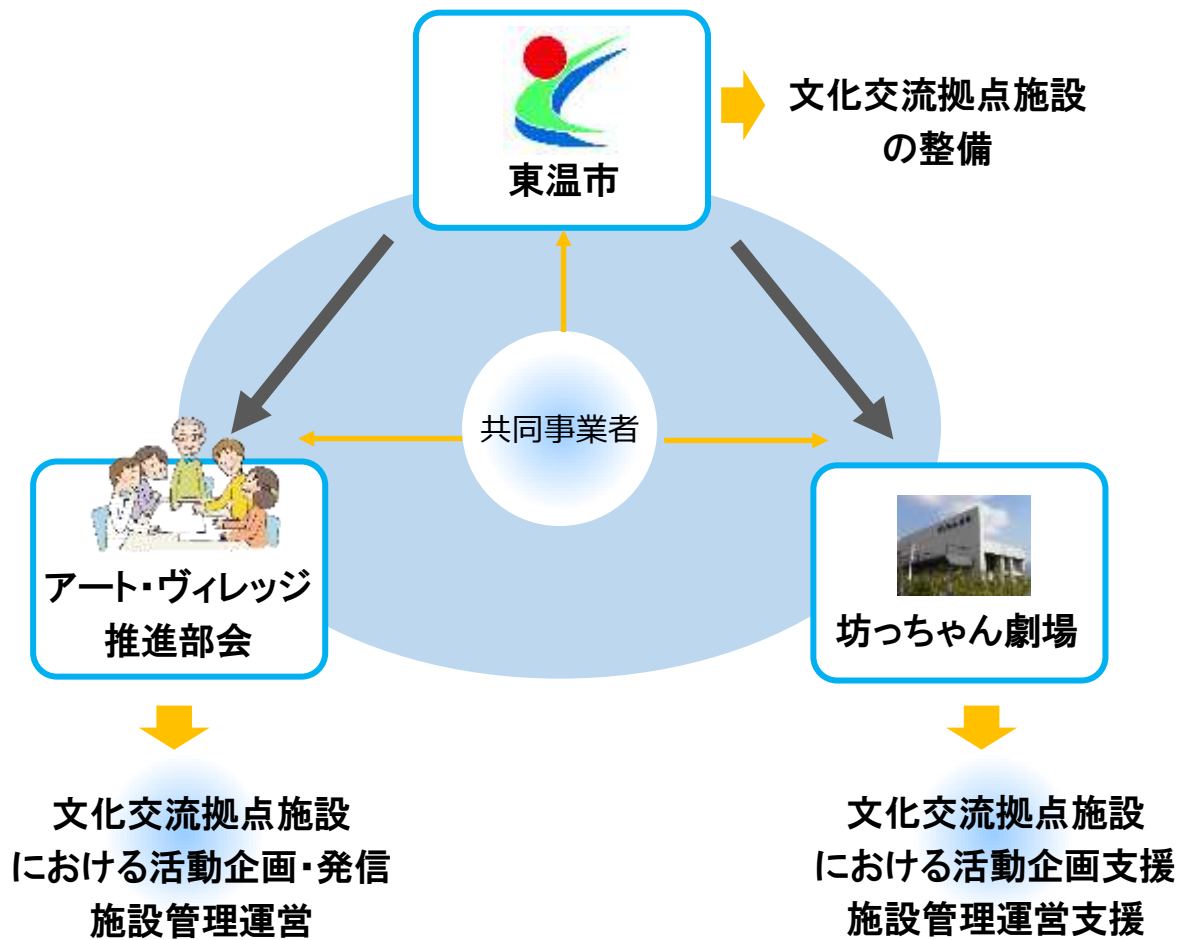
事業費の考え方



5 官民連携まちづくり施設のスキーム

事業投資により経済循環を創出し、発生した収益を運営経費に充てることで、市は最小限の経費でまちづくり施設を運営できます。

官民連携まちづくり施設のスキームとしては、運営組織として、アート・ヴィレッジ推進部会が中心となり、舞台芸術を中心とした文化芸術関連事業を推進します。舞台芸術のノウハウについては坊っちゃん劇場、文化交流拠点施設の整備については坊っちゃん劇場に隣接する商業施設の空きスペースを有効活用することにより、官民が一体となり最小限の投資で文化芸術の裾野を広げ、舞台芸術の聖地化を進めます。



資料

1 先進地視察の概要

(1)目的

アート・ヴィレッジ（文化芸術村）を構想するに当たり参考となる取組を実施している地方自治体または関連する団体を訪問し、施設内容、稼働率、入込客・売上の推移、関連する移住者数、行政との連携体制その他波及効果等について現地調査を行いました。

(2)視察場所

①大阪府大阪市住之江区北加賀屋

⇒アーティスト関連人材の受け入れ体制、空き店舗、空き家の活用事例等として

②岩手県紫波町

⇒官民連携による拠点整備、交流拠点を中心とした事業展開例等として

(3)視察日程

平成 29 年 3 月 21 日（火）～22 日（水）

(1)アート・ヴィレッジ構想を進める上で参考とすべき点

①アーティストにとって快適な創作の場と、その活動の基礎となる住居を確保すること

- ・この点において、「北加賀屋クリエイティブビレッジ構想」が参考となります。同地区は、大阪市内においても、郊外に位置し、高齢化も進行しているエリアですが、コンセプトに基づき、アーティストにとっても、受け入れる側にとってもメリットのある条件を設定することにより、アーティストやクリエイターが集うまちに変わっていき、年間35,000人が訪れるエリアとなっています。地主である「千島土地株式会社」の不動産業において、自社の運営資金も回り、さらに新規事業でまちに投資していくという循環を生み出しています。
- ・事業展開をするうえで、地域と地元企業との連携は重要な役割を担い、地元企業がメリットを感じたうえで、地域の発展を意識した事業展開をすれば、やがて自らの利益に還ってくるという姿勢が成功の鍵となります。市は自らの立場でできる役割を最大限に発揮し、地元企業と連携をしながら、相互に利益のある形を模索することで、アート・ヴィレッジ構想が成功すると考えられます。

②明確なコンセプトを設定することで、ブレのない事業を展開することができる

- ・北加賀屋、紫波町の両事例において、共通しているのは、事業を展開する上で、明確なコンセプトを設定することにより、事業全体にブレが生じていないことです。北加賀屋では、「芸術によるまちの活性化」として、紫波町では「生活者視点によるコンパクトシティの整備」が根底にコンセプトとして設定されています。
- ・コンセプトを実現するために、紫波町の場合においては、それぞれ専門の人材からなるデザイン会議によって、プロジェクト全体を動かしています。
- ・まちづくりにおいて景観やデザインの重要性は年々高まっており、両事例においても、統一されたデザイン、敷地内のサイン計画についても、参考となる部分は多くありました。
- ・アート・ヴィレッジ構想においても、多様性も重視しつつ、舞台芸術の聖地を目指す大きなコンセプトに基づいた事業展開が求められています。

③地域内経済を分析し、身近な所から顧客を開拓することで波及効果が得られる

- ・視察先の2事例ともに共通しているのは、地域の経済状況や相場、強み、ニーズなどを分析し、地域内の資源を活かし、いかに循環できるかを考察した上で、事業を展開しているように感じられました。
- ・例えば、紫波町においては、生活者起点のコンパクトシティを目指していることもあり、観光客を意識したしかけはされていなかったものの、人が集まることにより、飲食店、小売店が機能している印象を受けました。バレーボール施設についても、観客席を設けず人材育成の観点からトップセールスによる合宿誘致で稼働率が高くなっています。
- ・アート・ヴィレッジ構想においても、こうしたマーケティング調査をしっかりと行いながら、「人が来る仕組み」を組むことが成功の鍵となると考えられます。

(2)まとめ

- ・アート・ヴィレッジ構想を実施する上で、今回の2事例よりも大きな事業展開とするためには、国が公表している地域経済分析システム「RESAS」、統計資料、アンケート調査等を活用した上で、「人が来る仕組み」を確立する必要があります。
- ・現在進めている本市の空き家、空き店舗活用、中山間地域の活性化事業等とうまく連携しながら、「舞台芸術の聖地」という大きなコンセプトに基づいたブレない事業展開が求められています。
- ・地域内の文化芸術の裾野を広げ、事業化を図りながら、担い手の移住や活動内容の発信を進める必要があります。



アート・ヴィレッジ「とうおん」構想

平成 29 年 3 月

東温市 総務部 企画財政課
〒791-0292 愛媛県東温市見奈良 530 番地 1
TEL：089-964-2001（代）
：089-964-4401（課直通）